

東京の都市計画

震災後の グランドデザインに、 東京の今がある。

後藤新平は、帝都復興院総裁として、関東大震災で焦土と化した東京を、モダンな近代都市へと変貌させた。偉大なる行政官と、計画を立案実行する組織によって、新しい都市はどのように造られていったのか。そのプランと実現までの過程を、八十年後の現在から、検討してみる。

復興

興局公認東京都市計画地画「図」と題された図面を見よう。これは内務省復興局が昭和五(一九三〇)年に作成した地図で、ここに帝都復興事業で行われたさまざまな事業が集約されている。復興記念館所収のデータによると、事業の内訳は、予算額の多い順に、道路建設(三億九二一万円、総延長二四キロメートル)及び幅員二メートル以上の幹線道路五二路線など、土地区画整理(二億二七〇万円、約三六〇ヘクタール)、橋梁(六三三二万円、隅田川に架かる相生橋、清洲橋などの復興

興六大橋を含む四二五橋)、学校(四四三〇万円、耐火建築による公立学校二二二校)、上下水道(五〇二二万円、うち下水道事業が約八割)、河川及び運河の復興(二六九三万円、一四河川)、公園(二五六五万円、五五公園、合計約四二ヘクタール)などとなっている。

部に及んでいる。霞が関や日本橋、銀座を含む東京都心と下町の大半である。幹線は東西の靖国通りと南北の昭和通りを十字の軸としてこれに平行するように東西に蔵前橋通り、永代通り、晴海通り、南北に清澄通り、江戸通り、新大橋通り、外堀通りなどの街路樹を持った近代的な幹線道路が整備されていった(いずれも現在の道路名、以下同じ)。南北の中心軸である昭和通りには分離帯を持った緑地の中央に、のちに路面電車が走り、その下には地下

西村幸夫・文

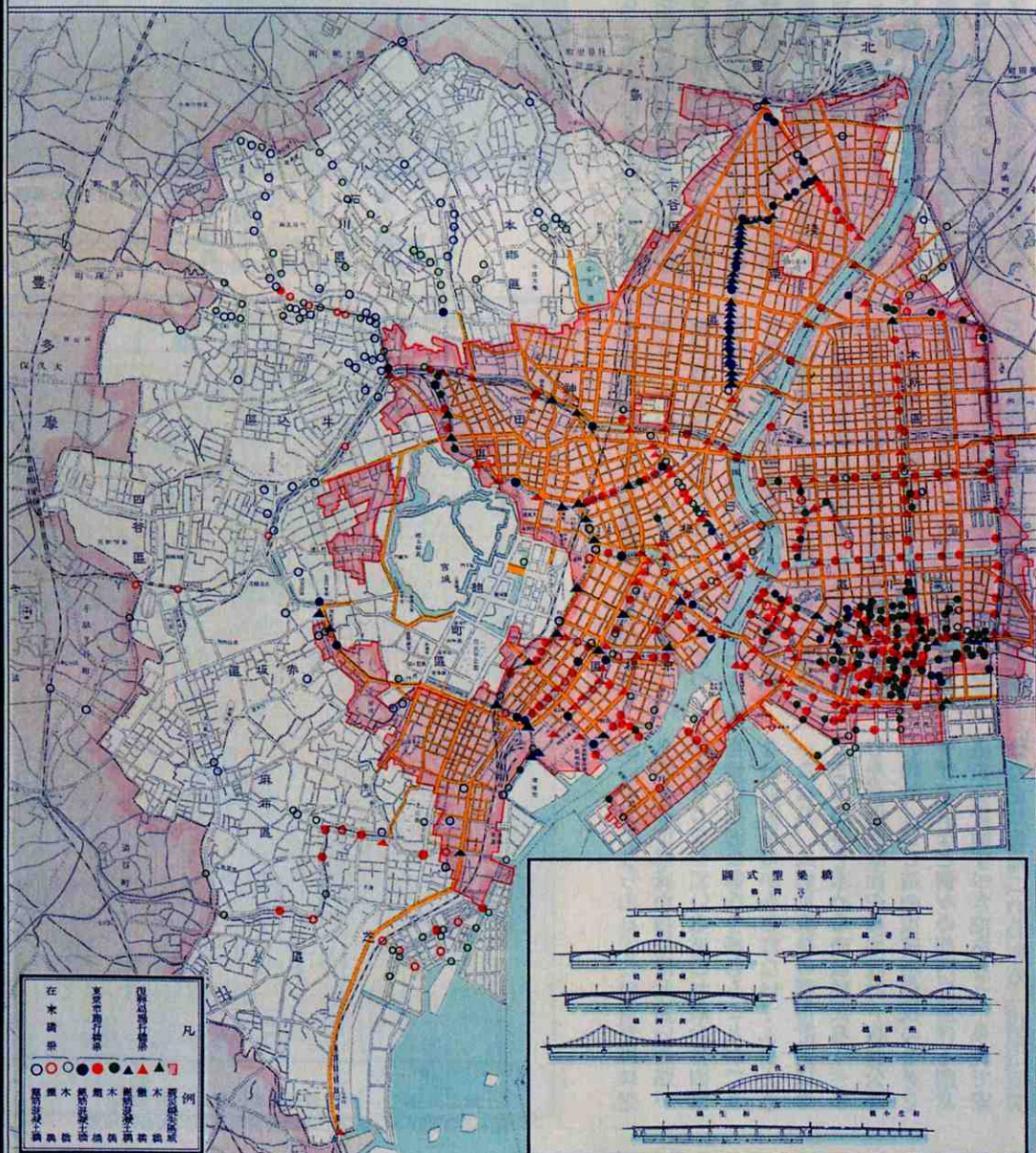
にしむら ゆきお 東京大学大学院工学系研究科教授。1952年福岡県生まれ。東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院修了。工学博士。著書に「都市保全計画」「環境保全と景観創造」「西村幸夫都市論ノート」、編著に「路地からのまちづくり」「都市美」「まちづくり学」など。

左・震災復興後の幹線第1号(昭和通り)。幅44メートルで、中央にはグリーンベルトがある
左ページ・帝都復興で最終に行われた事業をまとめた地図 昭和5(1930)年、復興局編(江戸東京博物館所蔵)



橋梁事業

圖一十第

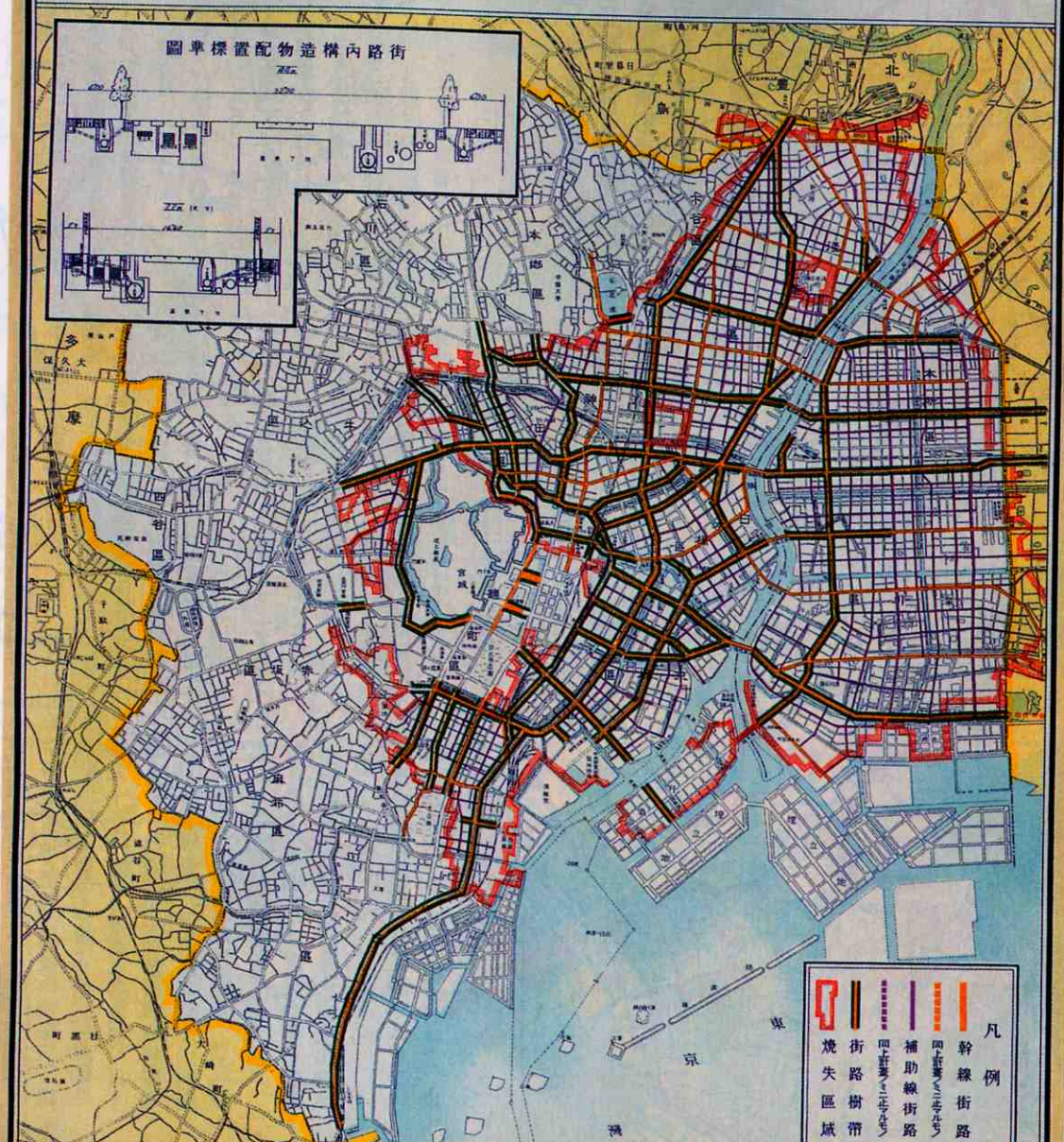


橋梁事業	
一 復興計畫橋梁一覽	橋面積
市施行橋梁	1,871,000
復興計畫橋梁	1,871,000
計	3,742,000
二 復興橋梁事業費	橋面積
市施行橋梁費	1,871,000
復興計畫橋梁費	1,871,000
計	3,742,000
三 復興橋梁事業費	橋面積
市施行橋梁費	1,871,000
復興計畫橋梁費	1,871,000
計	3,742,000
四 復興橋梁事業費	橋面積
市施行橋梁費	1,871,000
復興計畫橋梁費	1,871,000
計	3,742,000

「橋梁事業」。「帝都復興事業圖表」より第十一図。
昭和5(1930)年(東京市政調査会市政専門図書館所蔵)

街路事業

圖十第



街路事業	
一 事業種別延長面積	延長
市施行街路	1,701,000
復興計畫街路	1,701,000
計	3,402,000
二 復興街路事業費	延長
市施行街路費	1,701,000
復興計畫街路費	1,701,000
計	3,402,000
三 復興街路事業費	延長
市施行街路費	1,701,000
復興計畫街路費	1,701,000
計	3,402,000
四 復興街路事業費	延長
市施行街路費	1,701,000
復興計畫街路費	1,701,000
計	3,402,000

「街路事業」。「帝都復興事業圖表」より第十図。復興街路の概要を集約した地図。
昭和5(1930)年(東京市政調査会市政専門図書館所蔵)

